

平成29年度進捗評価シート
岡崎市歴史的風致維持向上計画（平成28年5月19日認定）
（最終変更平成30年3月29日）

□進捗評価シート(様式1)

①組織体制(様式1-1)		
1 計画の推進体制		1
②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式1-2)		
1 都市計画との連携(都市計画法)		2
2 景観計画の活用(景観法)		3
3 屋外広告物の規制(屋外広告物法)		4
4 市独自条例の運用(岡崎市水と緑・歴史と文化のまちづくり条例)		5
③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項(様式1-3)		
1 岡崎城跡発掘等調査事業		6
2 歴史文化基本構想策定事業		7
3 郷土読本作成等事業		8
4 歴史学習教室等事業		9
5 案内人養成事業		10
6 歴史的建造物実態調査事業		11
7 無形民俗文化財等調査支援等事業		12
8 伝統的技術・活動継承支援等事業		13
9 岡崎(城址)公園整備事業		14
10 文化財建造物保存修理事業		15
11 歴史的建造物保存修理・修景事業		16
12 歴史的建造物復元等整備事業		17
13 道路美装化事業		18
14 まちなみ景観整備事業		19
15 サイン・案内板整備事業		20
16 観光受入環境整備事業		21
④文化財の保存又は活用に関する事項(様式1-4)		
1 文化財の調査、保存活用計画の策定		22
2 文化財の保存修理事業		23
3 文化財に関する普及・啓発の取組、民間団体と連携した取組		24
⑤効果・影響等に関する報道(様式1-5)		25
⑥その他(効果等)(様式1-6)		
1 市民意識や認知度の向上		27
2 観光振興の動向		28

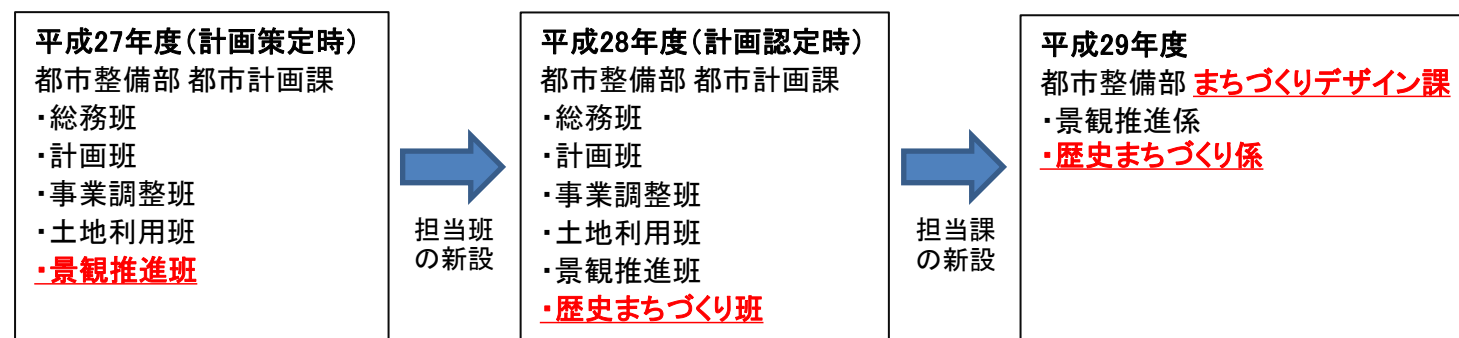
□法定協議会等におけるコメントシート(様式2)		29
-------------------------	-------	----

評価軸①-1
組織体制

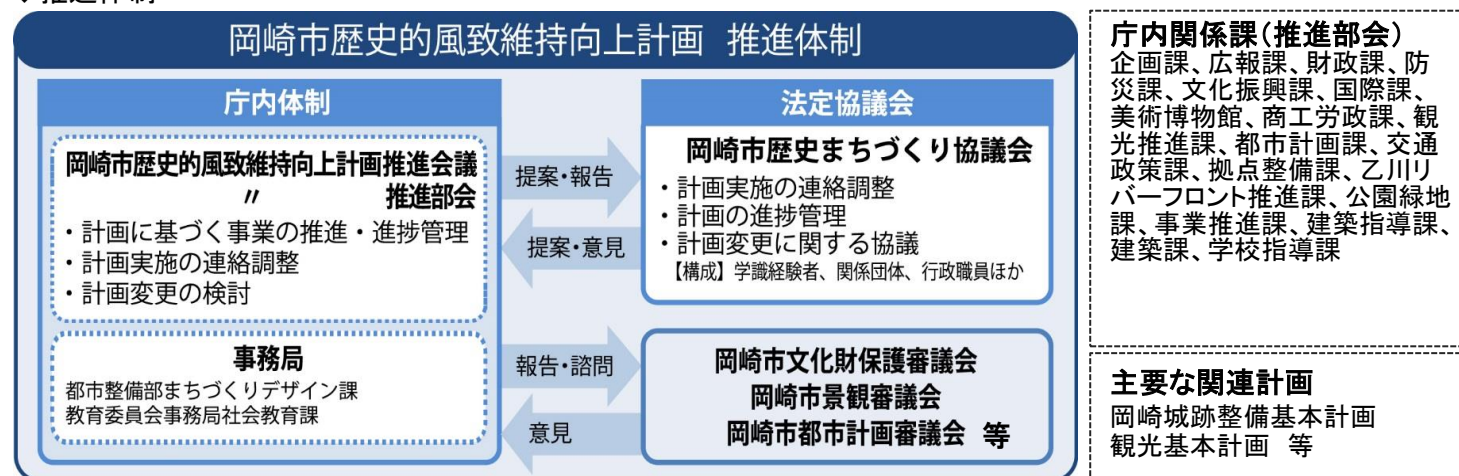
項目		評価対象年度	平成28～29年度 現在の状況
計画の推進体制			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	計画策定検討組織「岡崎市歴史的風致維持向上計画策定検討会議」を「岡崎市歴史的風致維持向上計画推進会議」に改編し、行政内部における計画の進行管理及び連絡調整を行う。計画変更に関わる検討事項がある場合や、事業実施に係る懸案事項等がある場合には、「岡崎市歴史まちづくり協議会」に意見聴取を求めるものとする。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
庁内体制として、事務局の組織改正が行われた。(平成28年度は担当班、平成29年度は担当課の新設) 「岡崎市歴史的風致維持向上計画推進会議(部長級)」及びその下部組織の「岡崎市歴史的風致維持向上計画推進部会(課長級)」を開催し、行政内部における計画の進行管理及び連絡調整を行った。(各3回) 「岡崎市歴史まちづくり協議会(法定協議会)」を開催し、各事業の進捗報告や事業評価における意見聴取を行った。(3回)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等

◆組織改正(庁内体制(事務局)の変更)



◆推進体制



岡崎市歴史的風致維持向上計画推進部会



岡崎市歴史まちづくり協議会

- 平成29年 5月15日(推進会議) ○平成29年 5月17日(推進部会)
 ○平成29年10月10日(推進会議) ○平成29年10月 5日(推進部会)
 ○平成30年 3月26日(推進会議) ○平成30年 3月15日(推進部会)

- 平成29年 5月19日
 ○平成29年11月 2日
 ○平成30年 3月29日

評価軸②-1
重点区域における良好な景観を形成する施策

項目		評価対象年度	平成28～29年度 現在の状況
都市計画との連携(都市計画法)			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	緩和型地区計画により伝統的な地場産業である八丁味噌を製造する味噌製造工場が立地する八帖地区で、地域の特性に応じてきめ細やかなルールを定める制度を活用して、周辺に見られる歴史的風致との調和に努め、良好な市街地環境の形成を図っていくものとする。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
平成19年(2007)決定の「八帖地区計画」に基づき、建築行為等に対し、地区の特性に応じた規制誘導を行った。 届出実績 平成29年度:1件			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等

◆地区計画の区域図、目標方針、制限内容



地区計画の目標・方針

- 地区計画の目標
当地区は、本市の中心部から西に位置し、矢作川、名古屋鉄道、愛知環状鉄道及び国道1号に囲まれた地区であり、伝統的な地場産業である「八丁味噌」と呼ばれる全国的に広く知られた特産品を製造する味噌製造工場を包含する区域である。
本計画は、味噌製造工場と住宅との共存した住環境の維持・保全を図ること及び伝統的な地場産業を土地利用の観点から保護・育成することを目指す。
- 土地利用の方針
当地区は、味噌製造工場と住宅とを主体とした土地利用を図る。
- 建築物等の整備の方針
当地区は、味噌製造工場と住宅を中心とした建築物の用途であるが、将来想定される用途の混在化にともなう環境悪化を防止し、味噌製造工場と住宅との共存した住環境の維持・保全を図るため、建築物等の用途、建築物の容積率の最高限度及び建築物の建ぺい率の最高限度の制限を行う。さらに、伝統的な地場産業の保護・育成として、味噌製造工場について建築物の用途制限を緩和する。

	A地区	B地区	C地区
建築物等の用途の制限※	次に掲げる建築物以外の建築物は、建築してはならない。 1.八丁味噌製造工場並びにこれに併設する八丁味噌関連加工食品及び醤油の製造工場 2.八丁味噌の製造又は販売に関連する事務所 3.八丁味噌に関する資料を展示する施設 4.建築基準法(昭和25年法律第201号、以下「法」という。)別表第2(ハ)項に掲げる建築物	次に掲げる建築物以外の建築物は、建築してはならない。 1.八丁味噌製造工場並びにこれに併設する八丁味噌関連加工食品及び醤油の製造工場 2.八丁味噌の製造又は販売に関連する事務所 3.八丁味噌に関する資料を展示する施設 4.法別表第2(ハ)項に掲げる建築物 なお、法第48条第9項の規定にかかわらず、原動機を使用する八丁味噌製造工場及びこれに併設する八丁味噌関連加工食品製造工場にあっては、作業場の床面積の合計が150㎡を超えるものを建築することができる。	次に掲げる建築物は、建築してはならない。 法別表第2(ホ)項第2号及び第3号並びに(チ)項第3号及び第4号に掲げる建築物
建築物の容積率の最高限度※	用途地域に関する都市計画において定められた数値	20/10	用途地域に関する都市計画において定められた数値
建築物の建ぺい率の最高限度※	用途地域に関する都市計画において定められた数値	6/10	用途地域に関する都市計画において定められた数値

※岡崎市八帖地区計画の区域内における建築物制限条例に定められています。



市道八帖大通2号線(八丁蔵通り)



市道中岡崎8号線(八帖往還通り)

項目	評価対象年度	平成28～29年度 現在の状況
----	--------	--------------------

景観計画の活用(景観法)

☐実施済
☒実施中
☐未着手

計画に記載している内容
景観形成重点地区においては、行為の届出を機会に協議を行い、建築物等の景観誘導を図る。新たな地区の拡大についても検討し、重点区域における歴史的風致の維持向上に関して実効性を高めていく。景観法第19条の規定に基づき、良好な景観の形成に寄与する重要な建造物を指定する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

平成24年(2012)策定の「岡崎市景観計画」に基づき、一定の建築行為等に対し、地区の特性に応じた規制誘導を行った。協議実績 平成28年度:8件、平成29年度:7件

(仮称)岡崎城下地区景観形成重点地区の指定に向けて、平成28年度に景観特性の把握等の基礎調査を実施し、平成29年度にその結果を基に景観形成方針の検討や住民意識調査等を行った。

(仮称)本宿地区景観形成重点地区の指定に向けて、平成29年度に景観特性等をまとめた景観まちづくりガイドブックを作成するとともに住民意識調査等を行い、景観形成の方針や基準を検討した。

平成29年度に景観重要建造物を2件指定し、合計10件となった。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

☒計画どおり進捗している
☐計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等

◆景観配慮指針(景観形成重点地区)

項目	推奨配慮指針(自主配慮)		
	大樹寺から岡崎城への眺望	八帖地区	藤川地区
建築物及び工作物	高さ 位置 配置	□高さや配置は、岡崎城への眺望を阻害しないものとするよう努める。	□周辺のまちなみと調和するよう、周囲から突出しない高さとするよう努める。
	形態 意匠	□眺望点から視認される屋根の形状や素材は、岡崎城への眺望を引き立たせるようなものとするよう努める。	□主要な通りに面する建築物等の壁面の位置は、歴史的な建造物等にできるだけそろえ、まちなみが連続するよう努める。
	色彩	□眺望点から視認される建築物等の色彩は、岡崎城と調和するよう、低彩度の落ち着いた色彩とするよう努める。	□壁面及び屋根の素材は、周辺のまちなみと調和するよう、落ち着いた質感を基本とし、自然素材を用いるよう努める。
	屋外 設備 等	—	□屋外に設ける設備(空調機器の室外機等)は、道路等の公共空間から直接見えにくい場所に配置するよう努める。
広告物等	□広告物を設置する場合は、眺望点から視認されない位置や規模とするよう努める。	—	□やむをえない場合は、建築物等との調和に配慮し、植栽や木製部材で囲うか色彩を工夫するよう努める。
道路空間	—	□利用者が安心して利用できる快適性と、道路舗装の工夫等により沿道のまちなみを引き立てる潤いのある道路空間の創出を図る。	—

※近景保全区域：眺望点から井田公園までの区域、中景保全区域：井田公園から岡崎城までの区域
遠景保全区域：岡崎城から国道248号南側(近隣商業地域)までの区域

◆景観重要建造物の指定



第9号 善立寺
(指定日:平成29年10月31日)



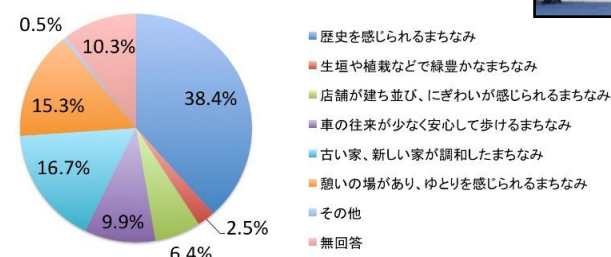
第10号 岡崎信用金庫資料館
(旧岡崎銀行本店)
(指定日:平成29年10月31日)

◆(仮称)本宿地区景観形成重点地区の指定促進

景観形成のルールづくりは重要ですか？



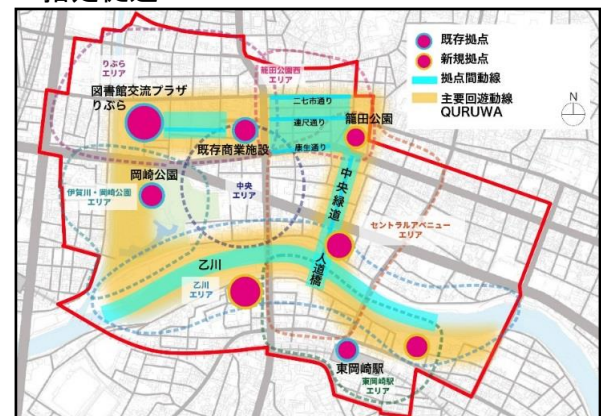
旧東海道沿いのまちなみとしてふさわしいと思うものは？



景観まちづくりガイドブックと意識調査



◆(仮称)岡崎城下地区景観形成重点地区の指定促進



基礎調査の範囲

評価軸②-3
重点区域における良好な景観を形成する施策

項目	評価対象年度	平成29年度
屋外広告物の規制(屋外広告物法)	現在の状況	☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

計画に記載している内容 重点区域やその周辺地域において、景観上大きな影響を及ぼす屋外広告物の規制の強化の検討や地域の特性に応じたガイドラインを策定するなど、重点区域における歴史的風致の維持向上に関する実効性を高めていくとともに、積極的に歴史的風致に調和するよう、良好な屋外広告物の誘導を図っていくものとする。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で
平成14年(2002)制定の「岡崎市屋外広告物条例」に基づき、屋外広告物の設置に対し、規制区分及び表示面積に応じた規制誘導を行った(平成28年度:526件、平成29年度:360件)。屋外広告物の適正管理の促進に向けて、個別基準等の見直し等に必要な基礎資料とするため、岡崎市中心市街地活性化区域内において屋外広告物の表示面積や色彩などの実態調査を行った。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	

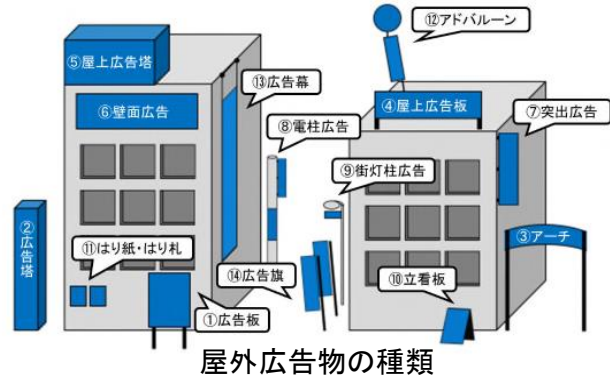
状況を示す写真や資料等

◆主な規制内容

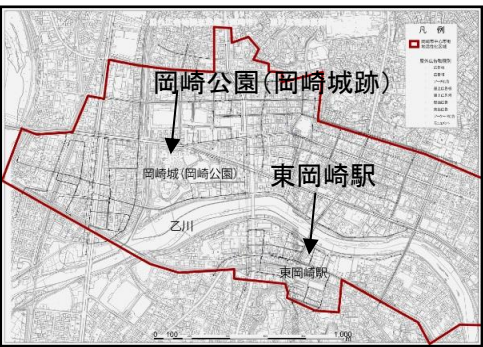
区分	広告板	広告塔	屋上広告	壁面広告板
禁止地域 (条例第3条)	一般広告物	表示不可	表示不可	表示不可
	自家用 広告物	高さ 10m以下 面積 20㎡以下	建築物 耐火・不燃構造 木造 高さ 建築物の高さの3分の2以下 地上から10m以下 面積 20㎡以下 20㎡以下	面積20㎡以下
	他の広告物を含めた最大可視面積が10㎡以下は許可不要。10㎡を超えると許可必要。全ての広告物の最大可視面積が20㎡まで表示可能。20㎡を超えると表示不可			
許可地域 (条例第5条)	一般広告物	高さ 10m以下 面積 35㎡以下	建築物 耐火・不燃構造 木造 高さ 建築物の高さの3分の2以下 地上から10m以下 面積 制限なし 20㎡以下	住居系の用途地域は面積20㎡以下
	面積に関係なく許可必要			
	自家用 広告物	高さ 10m以下 面積 35㎡以下	建築物 耐火・不燃構造 木造 高さ 建築物の高さの3分の2以下 地上から10m以下 面積 制限なし 20㎡以下	住居系の用途地域は面積20㎡以下
他の広告物を含めた最大可視面積が20㎡以下は許可不要。ただし、禁止地域を除く住居系の用途地域は10㎡を超えると許可必要				

※1 禁止地域を除く住居系の用途地域とは、都市計画法第8条第1項の規定により定められた、第1種・第2種中高層住居専用地域、第1種・第2種住居地域及び準住居地域をいう。
※2 面積は、広告板にあっては片面面積、広告塔、屋上広告、壁面広告にあっては最大可視面積を指す。

◆実態調査



屋外広告物の種類



岡崎市中心市街地活性化区域(赤線)



屋外広告物の掲出状況(東岡崎駅前・H29年度)

屋外広告物の種別	個数
広告板	412
広告塔	47
アーチ広告	9
屋上広告板	28
屋上広告塔	67
壁面広告	883
突出広告	341
アーケード広告	21
モニュメント	11
合計	1819

調査結果(種別個数)

上記中心市街地活性化区域内の主要路線沿線に掲出されている屋外広告物の総数は3,987件。(そのうち可視面積が1㎡以上は1,819件)

評価軸②-4
重点区域における良好な景観を形成する施策

項目	評価対象年度	平成28～29年度
		現在の状況
市独自条例の運用(岡崎市水と緑・歴史と文化のまちづくり条例)		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

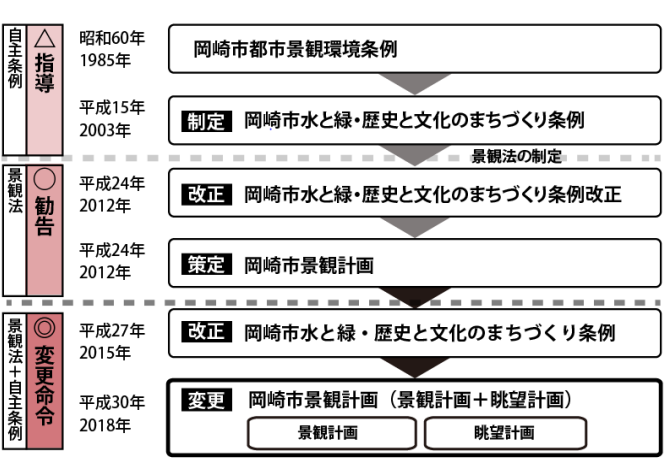
計画に記載している内容「岡崎市水と緑・歴史と文化のまちづくり条例」に基づいて、景観まちづくりを総合的かつ計画的に推進し、優れた眺望景観の保全を図るため、眺望景観の保全に関する計画(眺望計画)を定めることができる。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

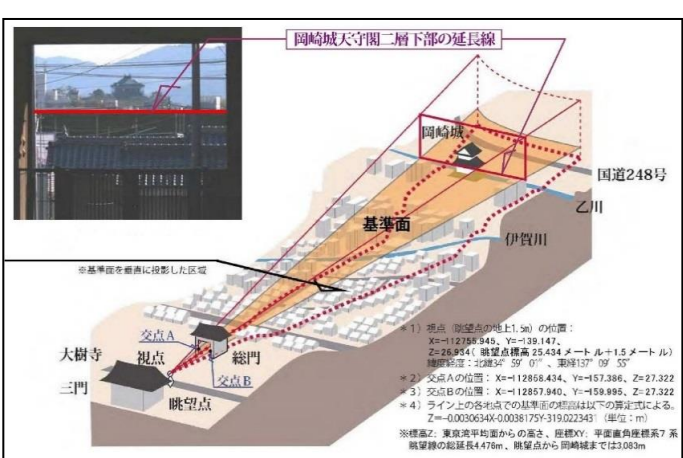
大樹寺から岡崎城天守への眺望(通称:ピスタライン)を将来にわたり確実に保全していくため、高さ制限について、勧告から変更命令を可能とする、強制力のある規制手法へ移行するべく、市条例に基づく眺望計画を策定した。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	

状況を示す写真や資料等



規制手法の移行



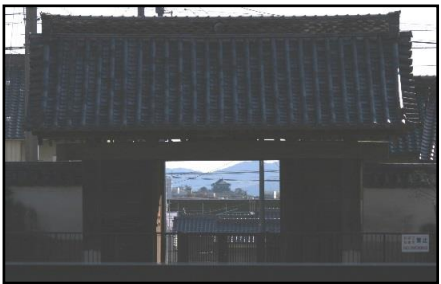
眺望景観保全地域の概念図

【眺望景観保全地域】

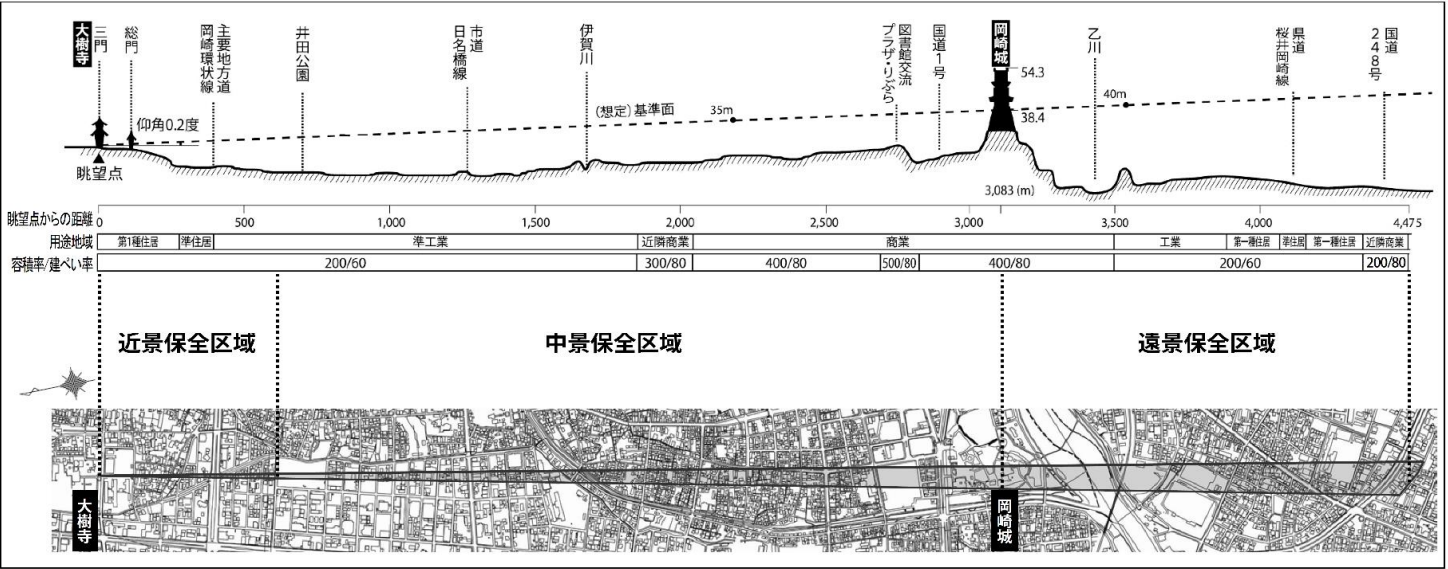
優れた眺望景観を保全するために必要な土地の区域

【特別地域】

眺望景観保全地域内で建築物又は工作物の高さ又は形態意匠が眺望景観に及ぼす影響が特に大きいと市長が認める土地の区域



大樹寺から岡崎城天守への眺望

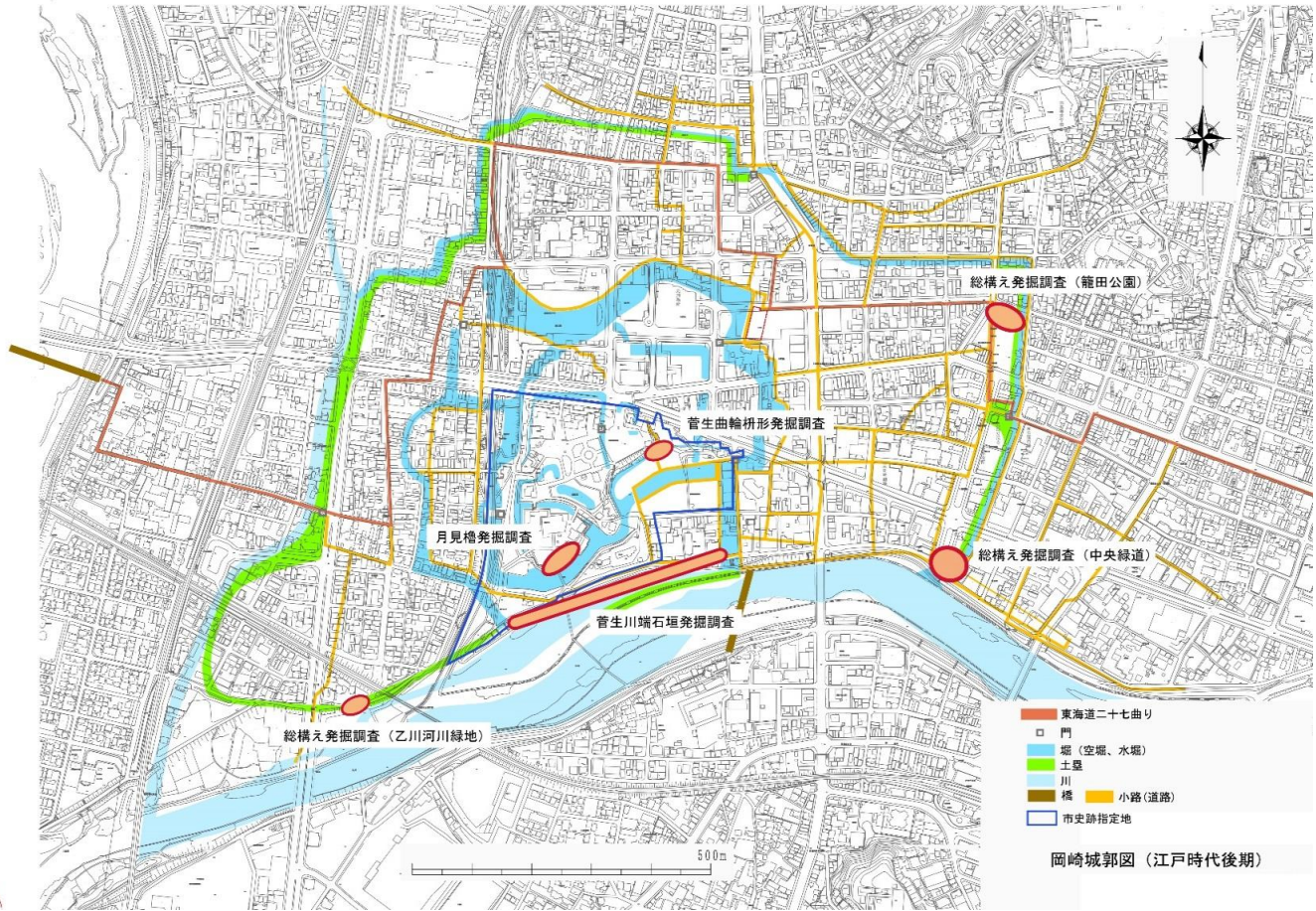


大樹寺から岡崎城天守への眺望景観保全地域(特別地域)

評価軸③-1
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	平成28～29年度 現在の状況
岡崎城跡発掘等調査事業			☐実施済 ☒実施中 ☐未着手
事業期間	昭和55年度～平成37年度		
支援事業名	市単独事業、社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)		
計画に記載している内容	市指定史跡岡崎城跡の価値を高め、保存・活用することを目的に、発掘調査や文献調査などの詳細調査を実施する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
城郭遺構の全容を把握するため、計画的に発掘調査を実施した。【平成28年度】《史跡指定地外》菅生川端石垣発掘調査【平成29年度】《史跡指定地内》月見櫓発掘調査、菅生曲輪枅形発掘調査、《史跡指定地外》総構え発掘調査(籠田公園)、総構え発掘調査(中央緑道)、総構え発掘調査(乙川河川緑地) 発掘調査ごとに現場公開期間を設け、現地説明会を開催した(平成28年度:3回、平成29年度:4回)。延べ参加人数は4,310名(平成28年度:3,150名、平成29年度:1,160名)で高い関心を集めた。さらに専門家(文化財保護審議会の委員)等を講師とした現地見学会も平成29年度に3回開催し、こちらも好評であった。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒計画どおり進捗している ☐計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等



発掘調査箇所



月見櫓発掘調査
（H29.8.14～H29.9.22）



菅生川端石垣発掘調査現地説明会
（H28.4.16）



岡崎城跡清堀ツアー
（H30.2.4）

評価軸③-2
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	平成28～29年度
歴史文化基本構想策定事業		現在の状況	
		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	平成28年度～平成32年度		
支援事業名	市単独事業、文化遺産総合活用推進事業		
計画に記載している内容	指定・未指定に関わらず、文化財を幅広く捉え、的確に把握し、文化財をその周辺環境まで含めて総合的に保存、活用していく市の基本的な考え方や文化財保護行政の方向などを示した「歴史文化基本構想」の策定を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
歴史的建造物調査の1次調査として、建築後50年以上経過した建造物(社寺を除く)の悉皆調査を、愛知県建築士会岡崎支部、愛知県建築士事務所協会岡崎支部所属の建築士有志と市建築職員が連携して実施した。(平成28年度:7学区、972物件、平成29年度:18学区、568物件) 文化財保護審議会委員の各専門分野毎の部会を立ち上げ、悉皆調査の内容や方法、歴史文化基本構想への反映方法を検討した。(平成29年度、2回開催)			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等

平成29年度 1次調査

調査回数	調査日	調査学区	参加人数(人)		調査対象物件数(件)		調査物件数(件)		
			士会 事務協	建築 職員	70年以上	50年以上 70年未満	70年 以上	50年以上 70年未満	50年 未満
1	6/3(土)	井田	10	5	101	328	33	28	0
2	6/17(土)	矢作南	8	3	150	440	34	26	0
3	6/24(土)	矢作西	8	4	95	230	19	9	0
4	7/15(土)	矢作北	13	6	70	165	16	15	1
5	7/22(土)	矢作東	10	4	66	200	13	7	0
6	7/29(土)	矢作東	11	5	86	131	26	9	1
7	8/5(土)	大樹寺	14	7	63	384	19	15	4
8	10/7(土)	本宿	6	3	129	231	23	5	2
9	11/11(土)	山中	5	3	141	269	12	11	0
		藤川	6	3	54	183	26	14	1
10	12/2(土)	岩津	8	4	129	237	16	12	0
11	12/23(土)	常磐東	6	3	87	121	22	14	0
		常磐	6	3	57	81	11	3	0
12	1/20(土)	常磐南	6	4	51	84	11	15	0
		男川	8	4	67	175	11	7	1
13	1/27(土)	男川	9	4	33	126	6	1	0
14	2/3(土)	男川	2	1	19	49	7	2	0
		竜美丘	4	2	14	66	4	5	0
		小豆坂	5	2	2	112	1	1	0
15	2/17(土)	竜谷	12	6	77	221	16	16	0
16	3/3(土)	北野	8	4	33	145	7	9	1
合計	16日	18学区	165	80	1,524	3,978	333	224	11
					5,502		568		

調査対象物件数…調査対象地区内に存する50年以上70年未満の物件及び70年以上の建造物の総数
調査物件数…調査対象物件の内、調査票を作成した建造物の件数

歴史的建造物調査(1次調査)



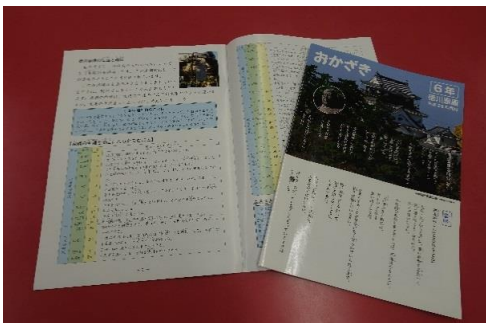
外観調査(H29年度)



調査後 報告(H29年度)

評価軸③-3

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	平成28～29年度 現在の状況
郷土読本作成等事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	昭和5年度～平成37年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	小中学校の郷土読本を毎年改定発行し、地域の産業や消費生活の様子、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて記載し、地域に対する誇りと愛情、地域の一員としての自覚を高める。また、市内47小学校区ごとに学区内の歴史、文化、自然、自慢などについて整理し、一冊の本「岡崎まちものがたり」にまとめ、各学区の図書室や小中学校の蔵書とするとともに、岡崎市のプロモーション資料としても活用する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
小学校3・4年生編、6年生編の郷土読本「おかざき」、及び中学校の副読本「岡崎」に掲載の資料等を編集・更新し、小改訂を行った。またこれらの冊子を使用した「おかざき学習」を市内全小中学校で実施した。 さらに平成28年度に各小学区協力のもと「岡崎まちものがたり」を作成発行し、平成29年度はその内容をテレビ放送やHPに掲載することで広く普及啓発を図った。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
 郷土読本(小学校3・4年生編)  郷土読本(小学校6年生編)  副読本(中学生編)  「岡崎まちものがたり」の冊子  「岡崎まちものがたり」を活用したポータルサイトによるプロモーション			

評価軸③-4

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	平成28～29年度 現在の状況
歴史学習教室等事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	昭和41年度～平成37年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	文化財への市民の理解を深めるための講座(文化財移動教室、親子文化財教室等)を企画、準備し、開催する。また、子供向けの歴史学習教室を開催し、小学校低学年から、本市の歴史文化資産や歴史まちづくりを理解する機会を提供する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
文化財保護審議会委員を講師としてテーマごとにコースを設定し、文化財を訪ねる文化財移動教室を開催した(平成28年度:10回、468名応募、242名参加、平成29年度:10回、489名応募、231名参加)。また、親子が一緒になって文化財に触れる親子文化財教室も開催した(平成28年度:1回、22組応募、31名参加、平成29年度:1回、26組応募、25名参加)。本市の維持向上すべき歴史的風致をテーマとして取り上げる歴史まちづくりシンポジウムを開催し、普及啓発を図った。(平成28年度:「家康公生誕の地」、135名参加、平成29年度:「東海道を舞台にした信仰・祭礼等」、141名参加)さらに、岡崎むかし館では風土記に関する講座を開催(平成28年度:4回、111名参加、平成29年度:4回、143名参加)するとともに、常設展示として岡崎の祭りなどの動画を放映した。			
		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			

状況を示す写真や資料等



文化財移動教室(伊賀八幡宮)
(H29.11.7)



親子文化財教室(菅生曲輪)
(H29.8.19)



岡崎市歴史まちづくりシンポジウム
(H28.12.8)



岡崎風土記チラシ
(H29年度)



岡崎むかし館

評価軸③-5

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	平成28～29年度 現在の状況
案内人養成事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成9年度～平成37年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	岡崎の歴史文化資産をより魅力的に伝えるため、ツアー等に同行しながらストーリー性のある案内ができる観光ガイドを知識や技能を向上させるための専門講座により養成する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
多くの観光客が来訪する岡崎公園内を中心に歴史文化資産を案内する「おかざき観光ガイドの会(44名)」の運営に対し助成し、研修を実施することでスキルアップを図った。(平成28年度:座学1回、現地3回、平成29年度:座学2回、現地3回) 市内に点在する歴史文化資産を案内する「歴史かたり人(23名)」の養成講座を実施(平成28年度:座学9回、現地3回、平成29年度:接遇1回、座学11回、現地1回)し、バスツアーや観光タクシー、まち歩き案内人としてガイド活動を行った。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
 「おかざき観光ガイド」案内所(岡崎公園内)		 「おかざき観光ガイドの会」案内の様子	
 「岡崎歴史かたり人」座学研修		 「岡崎歴史かたり人」現地研修	
 「岡崎歴史かたり人」バスツアー乗車案内		 「岡崎歴史かたり人」まち歩き案内	

おかざき観光ガイドの会

【平成28年度】

案内者数 22,540人
案内件数 2,530件

【平成29年度】

案内者数 21,403人
案内件数 2,655件

歴史かたり人

【平成28年度】

派遣延べ人数137人

【平成29年度】

派遣延べ人数110人

●主な派遣先

- ・岡崎ぐるり早めぐりバスツアー
- ・岡崎観光おもてなしタクシー
- ・岡さんぽ(まち歩き)
- ・舟遊び
- ・出前講座
- ・小学校歴史講座
- ・その他視察案内等

評価軸③-6
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	平成28～29年度 現在の状況
歴史的建造物実態調査事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成28年度～平成37年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	未指定・未登録の歴史的建造物に対する調査研究を、建築士に依頼し、文献調査、関係者へのヒアリング調査、現地調査等により行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
歴史的建造物調査の2次調査を愛知県建築士会岡崎支部、愛知県建築士事務所協会岡崎支部所属の建築士有志と市建築職員が連携して実施した。(平成28年度:2棟、平成29年度:3棟) また、平成29年度に愛知県建築士事務所協会岡崎支部が歴史的建造物の保存活用の専門家を養成する講座を実施し、全カリキュラムを受講した24名(サポートマイスターは3名)が「岡崎歴史的建造物マイスター」として登録された。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等



外観調査(H29年度)



内部調査(H29年度)

岡崎歴史的建造物マイスター養成講座
(第1期:2017)
募集要項・申込書



■募集人数 岡崎歴史的建造物マイスター 〈定員40名〉
歴史的建造物等の保存活用の提案、修景、修繕に関する相談業務及び調査・作図業務の担い手となる専門家やアドバイザーを養成します。

サポートマイスター 〈定員10名〉
岡崎市固有の歴史文化資産の守り手・継承活動、まち魅力の広報活動、歴史まちづくり及び歴史的建造物の保存活用に携わるサポート者を養成します。

■申込期間 平成29年8月1日(月)～8月14日(月)

■実施期間 9月9日(土)～2月24日(土)の間 11日間

主催 : 公益社団法人 愛知県建築士事務所協会 岡崎支部(岡崎市景観整備機構)
後援 : 岡崎市、岡崎市教育委員会、公益社団法人 愛知県建築士事務所協会
公益社団法人 愛知建設士会岡崎支部

「岡崎歴史的建造物マイスター」養成講座募集



「岡崎歴史的建造物マイスター」養成講座(H29年度)

評価軸③-7

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	平成28～29年度 現在の状況
無形民俗文化財等調査支援等事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成15年度～平成37年度		
支援事業名	市単独事業、民俗文化財調査費国庫補助		
計画に記載している内容	指定文化財だけでなく、未指定文化財を含めた民俗文化財の調査や記録、情報発信を行い、また、未指定文化財を含めた民俗文化財の活動を支援し、文化財の保存・継承及び地域の活性化を促進する。特に、民俗文化財に関する担い手や後継者の確保、また民俗文化財の伝承の支援を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
岡崎市文化財保存事業費補助金交付要綱に基づき、県指定及び市指定無形民俗文化財等の保存育成に対して、活動費等の一部を支援した(平成28年度:7団体、平成29年度:7団体)。また県指定無形民俗文化財「滝山寺鬼祭り」について、有識者等から成る委員会で協議し調査報告書をまとめ、継承のための基礎資料とした。 さらに岡崎市歴史的風致形成活動事業費補助金交付要綱に基づき、歴まち計画に記載された歴史的風致のうち50年以上続く歴史や伝統を反映した活動に対して費用の一部を支援し、未指定文化財に対しても継承を図った(H29年度:3団体)。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
 大嘗祭悠紀斎田(市指定)  滝山寺鬼祭り民俗文化財調査報告書  古く傷んだ山車車輪の修繕  本宿神明社の祇園祭  古く傷んだ提灯の新調(左:新調後、右:従前)  津島神社の天王祭り			

項目		評価対象年度	平成28～29年度 現在の状況
伝統的技術・活動継承支援等事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成12年度～平成37年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	伝統的な技術や技法を保持する者と、そのもとで技術や技法を修得し継承しようとする者に対し、技術伝承にかかる活動費の支援を行う。また、地域固有の歴史及び伝統を反映した人々の活動継承に対する支援を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
伝統的工芸品に指定されている「岡崎石工品」の価値や魅力を広く周知するため、岡崎ストーンフェアを開催した。平成28年度、平成29年度ともに1万人以上の参加があり、全国三大石製品産地の一つに数えられる岡崎石製品の需要の開拓や地場産業振興につながった。また、市内の公共施設等(平成28年度:斎場、平成29年度:額田センター)に岡崎石工品を設置し周知するとともに、「2017石材グランプリ岡崎」を開催し、業界の盛り上がりを見ることができた。 観光客が多く訪れる市内や県外のスポットで、岡崎の石製品、三河仏壇を始めとした伝統産業及び地場産業の展示、紹介及び実演を行うことで、岡崎市のPRや、伝統産業及び地場産業の振興を図った。(平成28年度:5回、平成29年度:7回)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			



岡崎ストーンフェアの様子(乙川河川敷)
(H29.10.14～15)



岡崎石職人による石製品モニュメント(額田センター)
(H29年度)



和太鼓の製作実演(藤川道の駅)
(H29.7.22)



和ろうそくの製作体験(東京展示会)
(H30.1.13)

項目		評価対象年度	平成28～29年度 現在の状況
岡崎(城址)公園整備事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成15年度～平成37年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載 している内容	市文化財に指定されている史跡岡崎城跡(岡崎公園)を、その歴史、自然、文化、観光等の資源を活用した城址にふさわしい公園として再整備を進める。また、史跡岡崎城跡を構成する重要な要素である石垣の修復を行う。そして、「史跡岡崎城跡整備基本計画(平成15年度)」を改訂し、史跡や岡崎公園の歴史的価値を活かした、観光客や市民に親しまれる公園としての整備の推進を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
岡崎城跡の顕在化を図り、流れ(ストーリー)のある総構えの整備・活用を行うため、平成28年度に「史跡岡崎城跡整備基本計画」を「岡崎城跡整備基本計画」へ改訂した。 天守台石垣の三次元測量を行い、石垣の構築・修理年代を研究する資料とした。また、石垣の孕みなど、危険度が高い2か所について、変位計測する定点観測を実施した。それらの基礎資料等を踏まえ、岡崎城跡の本質的価値を有する石垣を確実に保存継承していくための「石垣保存修理基本計画」を策定した。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等

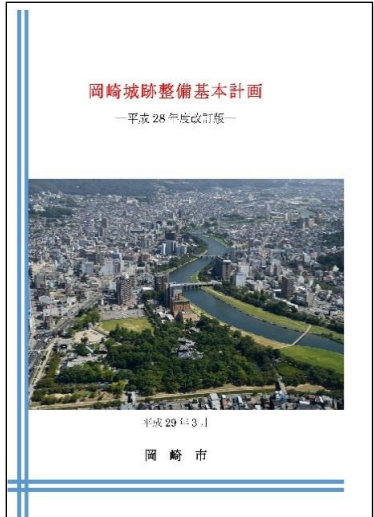


岡崎城郭図(内郭部分)



石垣の変位計測箇所(本丸埋門)

- 石垣三次元測量箇所
- 石垣変位計測箇所



岡崎城跡整備基本計画 (H28年度)

評価軸③-10
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	平成28～29年度 現在の状況
文化財建造物保存修理事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	昭和27年度～平成37年度		
支援事業名	市単独事業、文化財建造物等を活用した地域活性化事業		
計画に記載している内容	文化財建造物の保存修理事業に対し補助を行う。重要文化財建造物である旧額田郡公会堂及物産陳列所は保存活用計画を作成した上で、保存修理事業を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
国・県・市の指定を受けている文化財(建造物)の保存修理費用の一部を支援し、保存修理が行われた。(平成28年度:重要文化財「六所神社社殿」、平成29年度:重要文化財「六所神社社殿」、県指定文化財「大樹寺鐘楼」、市指定文化財「甲山寺本堂」) 重要文化財「旧額田郡公会堂及物産陳列所」の保存活用計画を、策定検討委員会や庁内調整会議を経て平成29年度に策定した。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等



修理後(六所神社社殿(楼門)の塗替補修等)



修理後(六所神社社殿(神供所)の屋根葺き替え等)



修理後(大樹寺鐘楼の袴板補修等)



修理後(甲山寺本堂(護摩堂)の屋根葺き替え等)

■当初の建物の機能や用途

- 公会堂:「人が集まる場所」
市民が文化的な営みを積み重ね、文化を醸成する場所。市施行記念行事や学芸大会、洋楽大演奏会など多様な催しが行われ、和装や洋装、様々な身なりで交流を楽しんだ。
- 陳列所:「ものと情報を集め、魅力を発信する場所」
地方産出の商品・工芸品等を陳列し、魅力を発信することにより、産物の振興を図った。

■今後の活用の基本方針

- ・地域の文化や産業を支えた建物本来の意義や、歴史的空間を尊重する。
- ・市民の多様な活動を支える場として敷地全体の活用を図る。



保存活用計画 抜粋
(「図:公開活用の基本方針」)



旧額田郡公会堂



旧額田郡公会堂及物産陳列所
保存活用計画

項目		評価対象年度	平成28～29年度 現在の状況
歴史的建造物保存修理・修景事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成24年度～平成37年度		
支援事業名	市単独事業、社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)		
計画に記載している内容	景観重要建造物(市域全域)又は歴史的風致形成建造物(重点区域内)に指定している建造物の外観の保全に係る修理・修景に対して支援する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
岡崎市景観形成補助金等交付要綱に基づき、景観重要建造物の外観の保全に必要な修理・修景の費用の一部を支援し、外観の保全を図った(平成28年度:2件、平成29年度:1件)。 平成29年度に6件の歴史的風致形成建造物の指定を行い、岡崎市歴史的風致形成建造物補助金交付要綱に基づき、そのうちの1件について屋根の復原等修景工事の費用の一部を支援し、歴史的建造物の外観復原を図った。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
◆アイチ味噌溜店舗(景観重要建造物)   外壁張替え  修景前 【H28年度】修景後			
◆旧石原家住宅(景観重要建造物)   瓦工事、漆喰補修、木壁補修、桶補修  修景前 【H29年度】修景後			
◆十王堂(歴史的風致形成建造物)   古写真を基に 外観復原(屋根を切妻造りから寄棟造りに)  修景前 【H29年度】修景(外観復原)後			

		評価対象年度	平成29年度
項目		現在の状況	
歴史的建造物復元等整備事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	平成29年度～平成37年度		
支援事業名	市単独事業、社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業）		
計画に記載している内容	総構えの発掘調査や文献調査などの詳細調査結果を基に、関係機関と連携しつつ遺構の保存に配慮しながら、籠田総門を始めとする各種門や曲輪などを史実に基づいて適切な復元整備を行う。また、総構えの位置を現地で分かりやすく表示するための方法の検討と、その方法などに基づく表示の整備を行う。		
定性的・定量的評価（自由記述） ※定量的評価は可能な範囲で			
岡崎城跡菅生川端石垣復元整備については、平成29年度から有識者調整会議を開催し課題等を検討するとともに、石垣レーダー探査で必要な基礎データの取得や今後の保存整備について基本設計を行った。 岡崎城跡総構え位置表示整備については、平成29年度に現地調査等を踏まえた基本方針や具体的な整備手法をまとめた整備基本計画を策定した。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等

石垣調査票 岡崎城跡 18菅生川端石垣			
石垣番号	18-006	地区	菅生川端 石垣
石垣部位		方位	南東
地盤	岩盤・地山 露土・不固	立地面	平場跡・曲輪
延長	天端	堰基部	
高さ	左 1.6 m 中央 2 m 右 2 m		
隅角部	平面形状	勾配	反り
	左 凹形（入り角・緩急角・緩入角・イリリ）	度	有（無）
	右 凸形（入り角・緩急角・緩入角・イリリ）	度	有（無）
	加工修繕等	築置法（土・石・木・鉄）	築置法（土・石・木・鉄）
築石部	平面形状	勾配	反り
	直線・曲線	度	有（無）
	加工修繕等	築置法（土・石・木・鉄）	築置法（土・石・木・鉄）
	加工修繕等	築置法（土・石・木・鉄）	築置法（土・石・木・鉄）

菅生川端石垣カルテ



菅生川端石垣

オーセンティシティとエンターテイメントを両立させながら、ストーリー性を持つてつなぎ合わせる

オーセンティシティ ※

※真正

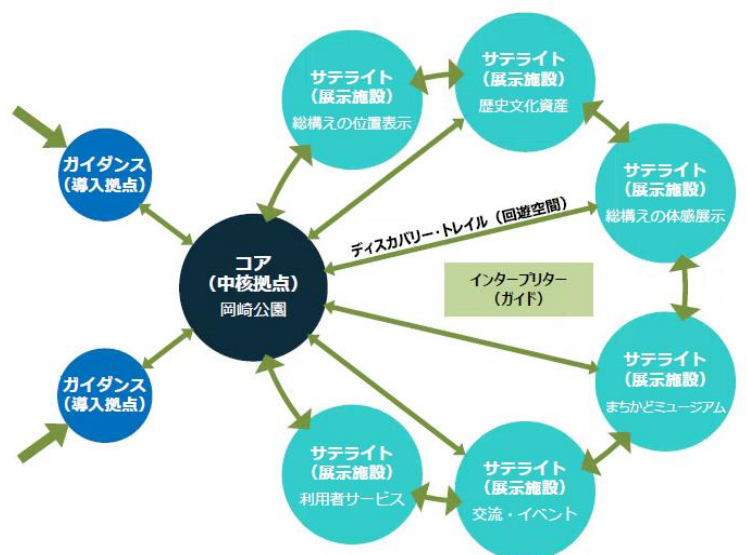
エンターテイメント

※仮設・仮想現実体験

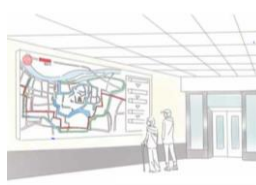
最大の観光資源・最大の観光拠点

導入施設 (ガイダンス)	〔岡崎城総構えネットワーク〕の存在を知らせるとともに魅力を発信し、まちなかに設けた〔拠点施設〕や〔展示・体験施設〕へと誘導するための情報発信を行う。
拠点施設 (コア)	岡崎城総構えに関する展示や体験により、岡崎城総構えの全体像を伝え、来訪者の理解促進を図るとともに、まちなかに点在する歴史文化資産へと誘導する。
展示・体験施設 (サテライト)	まちなかに点在する歴史文化資産を現地で保存し、情報提供を行う。
回遊空間 (発見の小径、 ディスカバリー・ トレイル)	〔拠点施設〕や〔展示・体験施設〕を楽しく効率的に案内するルートを通りながら、岡崎城総構えの価値や魅力の発見へと導く。
翻訳・案内 (インタープリター、 ガイド)	来訪者とコミュニケーションを図りながら〔回遊空間〕を案内する。

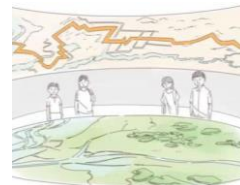
総構えを巡りながら、歴史や文化、交流等を
楽しむことのできるネットワークを構築し、回遊を促進



導入施設イメージ



拠点施設整備イメージ



展示・体験施設イメージ



岡崎城跡総構え位置表示整備基本計画(H29年度)

評価対象年度		平成29年度
項目		現在の状況
道路美装化事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間 平成29年度～平成37年度

支援事業名 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)、社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)

計画に記載している内容 「八帖地区」「藤川地区」等の景観形成重点地区内の旧東海道等や大樹寺三門前等の路線について、脱色アスファルトや石畳風の道路舗装など美装化の整備を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

景観形成上重要な地区内の道路や歴史的風致を形成する道路を対象に、道路美装化などの修景整備方針を定めた。特に、東海道岡崎城下二十七曲りは、岡崎の市街地の歴史を伝える貴重な文化遺産であり、まちなかの活性化につながる回遊性の向上が求められているため、景観に配慮し、安全・快適かつ容易にまちなかを巡ることができるよう、道路空間整備に関する修景整備計画を策定した。

進捗状況 ※計画年次との対応

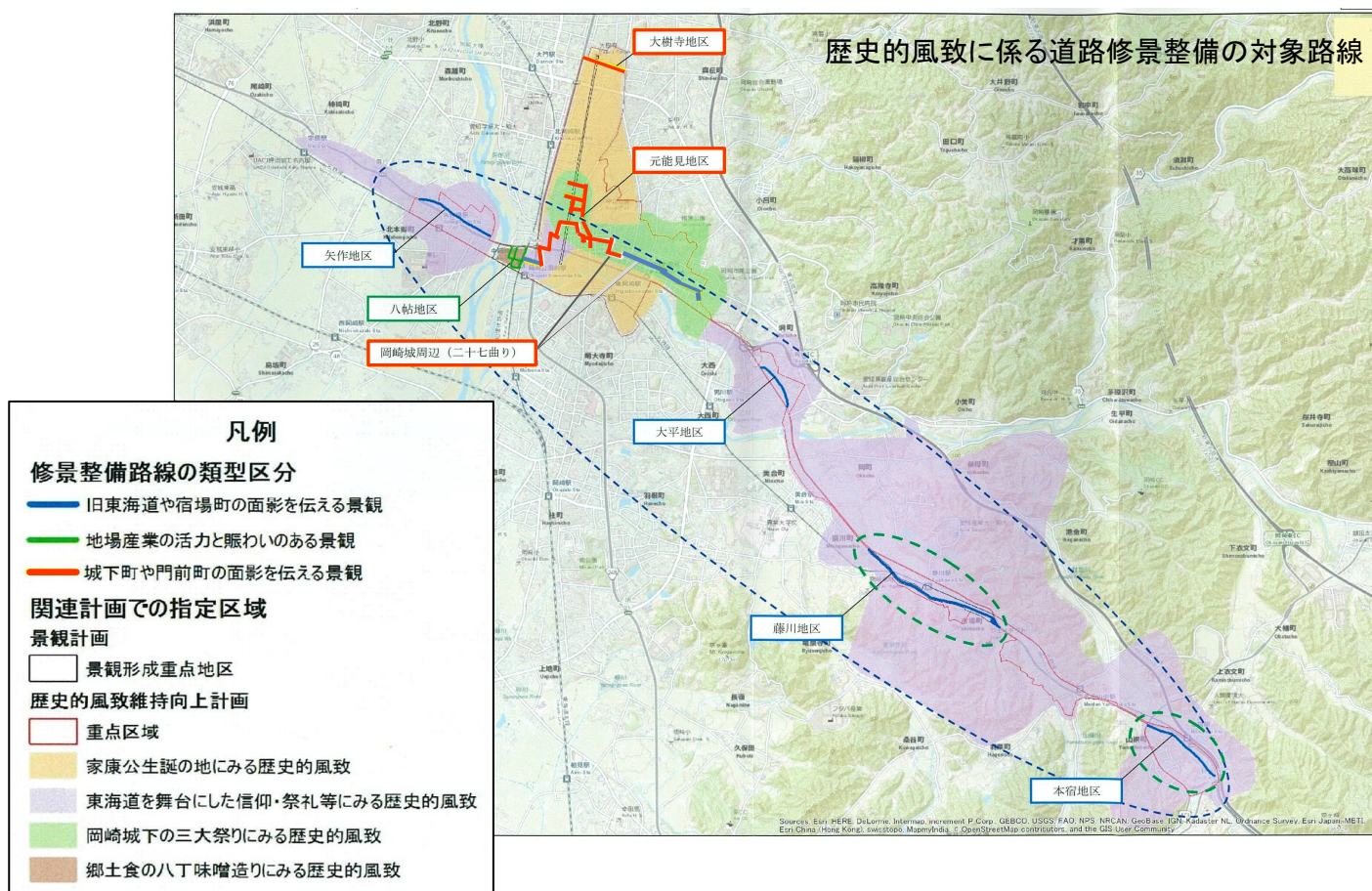
実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

☒計画どおり進捗している
☐計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等

《整備方針》

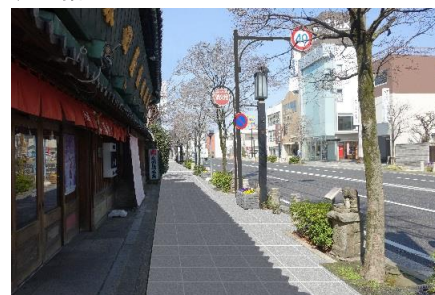
安全・快適に歴史を体感しながら巡り回れる歩行空間の再編



◇デザインテーマ 旧東海道の風情が漂うまちなみ

道路デザイン要素		配慮方針
連続性	舗装	・道筋の連続性が確保できるように配慮する。 ・歩きやすい素材を使用する。 ・周辺景観を引き立たせる控え目なデザインとし、安易な模様貼りなどは行わない。
	道路附属物等	・色彩などまちなみ景観の形成に寄与するように配慮する。 ・無電柱化や電線類の表配線などを検討する。
地域特性	歴史文化資産	・常夜燈などを当時の場所へ再設置することを検討する。 ・当時の道路幅員を舗装面に示す。

◇整備イメージ



東海道岡崎城下二十七曲り道路修景整備計画(H29年度)

項目		評価対象年度	平成28～29年度 現在の状況
まちなみ景観整備事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成28年度～平成37年度		
支援事業名	市単独事業、社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業）、社会資本整備総合交付金（街なみ環境整備事業）		
計画に記載している内容	「大樹寺から岡崎城への眺望」「八帖地区」等の景観形成重点地区等内において、岡崎市景観計画等に定めた景観配慮指針や基準に適合する修景や、建築物や工作物の外観修景に対して支援する。		
定性的・定量的評価（自由記述） ※定量的評価は可能な範囲で			
岡崎市まちなみ修景補助金交付要綱に基づき、景観まちづくりに特に寄与すると認められる建築行為等について、その外観の修理・修景に必要な費用の一部を支援し、まちなみ景観の保全を図った（平成28年度：3件、平成29年度：4件）。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
(H29実績)	修景前	修景後	
岡本家住宅 木塀設置			
片山家住宅 外壁塗装			
十王堂 外構工事			
まるや八丁味噌 木塀設置			

評価軸③-15
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	平成28～29年度 現在の状況
サイン・案内板整備事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間	平成6年度～平成37年度
支援事業名	市単独事業、社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業）
計画に記載している内容	歴史文化資産の周辺など来訪者の多い場所において、歴史文化資産の紹介や観光ルート等に関する案内板の新設・改修・修繕を行う。また、案内板の整備にあたっては、多言語化、通信機器への対応について、ICT技術の活用を踏まえた検討をする。

定性的・定量的評価（自由記述） ※定量的評価は可能な範囲で	
歴史文化資産の価値と魅力をわかりやすく情報発信する歴史文化資産解説板整備については、平成28年度に基本計画を策定し、平成29年度に実施設計を行った。 そして、観光客の多いまちなかでは、インバウンド観光にも対応した回遊性向上のため、わかりやすく快適な案内サインシステムを整備するまちなか案内サイン整備を行っており、平成28年度に基本設計、平成29年度に実施設計を行い、1基設置した。	

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	

状況を示す写真や資料等

【サイン・案内板整備計画のテーマ】

「ばらばらだったものをつなぐ」

- 個別に扱われてきた歴史文化資産どうしの関係、地域全体のつながりを示す
- デザイン、情報内容、表現形式に統一性・一貫性を持たせる
- 祭礼・儀礼等の行事に関わる時期的な情報を扱う

◇デザイン方針

【景観への配慮】 岡崎城跡が持つ歴史的な景観を阻害しない色や形状であること
【不要な装飾の排除】 見やすく分かりやすい、シンプルな形状や表示面であること
【顕在性の確保】 図となる石垣等と異なる材料的性質を持ち、見つけやすさを確保すること
【デザインの統一性】 連続した案内となるようデザインの統一性を確保すること

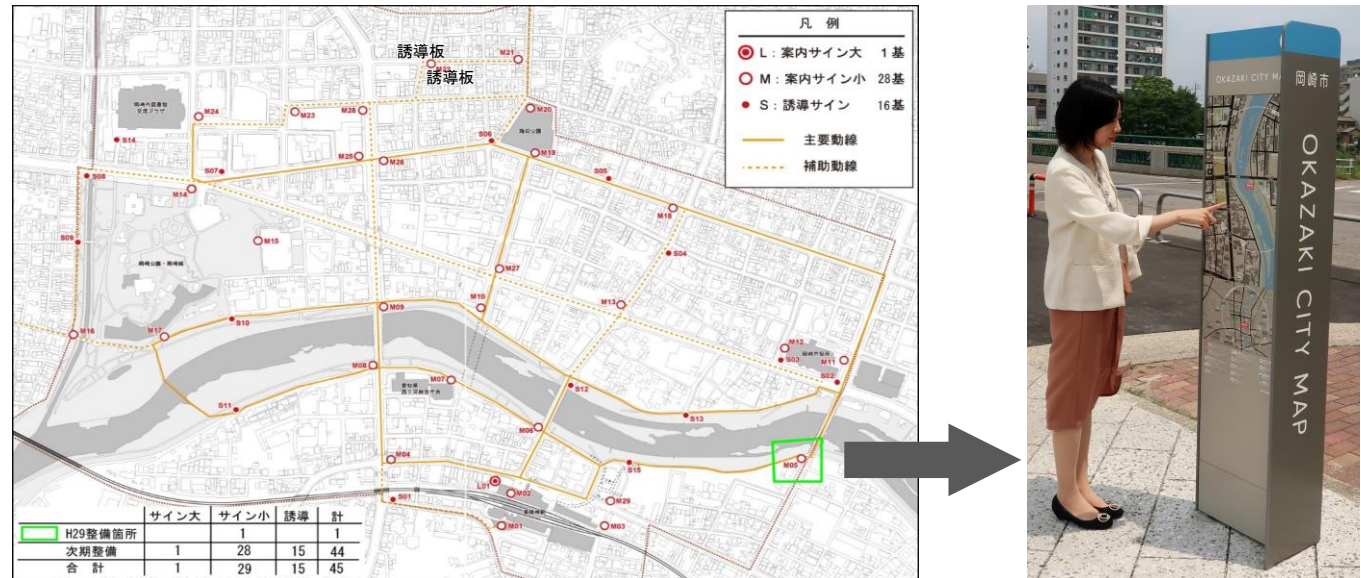
◇サインシステム（情報の階層化）

H1800 W1800

H1200 W1100 H1200 W300 H1200 W180 H1200 W180

□広域観光案内板・公園総合案内板 □公園案内板 □解説板 □誘導板 □名称板

歴史文化資産（岡崎公園）解説板設置に係る実施設計



まちなか案内サイン配置図

吹矢橋公園（H29年度）

項目		評価対象年度	平成28～29年度 現在の状況
観光受入環境整備事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成27年度～平成37年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	魅力的な観光周遊ルート形成に向けた整備計画を作成し、受入のための具体的なソフトとハードの環境整備を行う。駐車場や観光用のタクシーの整備のほか、ワンデypassなど公共交通利用促進、外国人向けの案内ガイドの育成や外国人向けの体験プログラムの開発と実施を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
市内に点在する歴史文化資産を繋ぎ合わせ、ストーリー性のある新たな観光ルートを創出するため、「岡崎ぐるり早めぐりバスツアー」(平成28年度:11コース、43日催行、利用者数1,377人、平成29年度:18コース、40日催行、利用者数1,193人)や、「岡崎観光おもてなしタクシー」(平成28年度:2コース、8日催行、利用者16人、平成29年度:2コース、14日催行、利用者数42人)を実施した。また、「岡崎城下家康公お城クーポン(まち歩きクーポン)」(平成28年度:販売数2,041枚、平成29年度:販売数 2073枚)や、「団体専用の旅行パック」(平成28年度:利用者数2,051人、平成29年度:利用者数1253人)を販売し、観光客の利便性及び満足度の向上を図っている。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
 岡崎ぐるり早めぐりバスツアー  岡崎観光おもてなしタクシー  チラシ  岡崎城下家康公お城クーポン(まち歩きクーポン)			

評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

		評価対象年度	平成28～29年度
		項目	現在の状況
		文化財の調査、保存活用計画の策定	☐実施済 ☒実施中 ☐未着手
計画に記載している内容	岡崎城跡等の重要な文化財の整備に際しては、専門家等の知見を得るため、検討委員会を組織し、発掘調査等の調査を実施した上で、史実に基づいた適切な整備を行っていくものとする。 重要文化財建造物「旧額田郡公会堂及物産陳列所」のように、経年劣化による破損が見られるものがあるため、保存活用計画を作成し、適切に維持、管理した上で修理を行っていくものとする。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
平成29年3月に改訂した「岡崎城跡整備基本計画」に基づき、城郭遺構の全容を把握するため、発掘調査を行った。(評価軸③－1参照) 【平成28年度】《史跡指定地外》菅生川端石垣発掘調査 【平成29年度】《史跡指定地内》月見櫓発掘調査、菅生曲輪枅形発掘調査、《史跡指定地外》総構え発掘調査(籠田公園)、総構え発掘調査(中央緑道)、総構え土塁(乙川河川緑地) 平成28、29年度の2か年で、「額田郡公会堂及物産陳列所保存活用計画」を策定した。(評価軸③－10参照)			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒計画どおり進捗している ☐計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等



菅生川端石垣発掘調査
(H28.4.16)



月見櫓発掘調査(H29.8.14～H29.9.22)



旧額田郡公会堂及物産陳列所保存活用計画
策定検討委員会(H28.12.21)



総構え発掘調査(籠田公園)(H29.7.11～H29.7.28)



菅生曲輪枳形発掘調査(H29.11.9～H29.12.22)

評価軸④-2

文化財の保存又は活用に関する事項

項目		評価対象年度	平成28～29年度 現在の状況
文化財の保存修理事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	文化財の修理においては、日常的な観察と定期的な現状把握に努め、破損等が判明した場合には、その状況や緊急性を勘案して修理時期を検討し、修理を実施していく。指定文化財の修理及び整備にあたっては、その内容に応じ所有者の経済的負担を軽減するために、必要な経費に対して補助金を交付し、文化財の確実な保存・活用を図る。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
指定文化財の建造物等について、計画的に保存修理又は保存修理費の支援を実施し、適切な保存活用を図ることができた。(評価軸③-7、③-10参照) ・国指定重要文化財「六所神社社殿」保存修理(平成26年～29年度) ・県指定文化財「大樹寺伽藍(鐘楼)」保存修理(平成29年度) ・市指定文化財「甲山寺本堂(護摩堂)」保存修理(平成29年度) ・市指定有形民俗文化財「祭礼山車」(矢作三区)保存修理(平成29年度)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等



修理後(六所神社社殿(楼門)の塗替補修等)



修理後(六所神社社殿(神供所)の屋根葺き替え等)



修理後(大樹寺鐘楼の袴板補修等)



修理後(祭礼山車(矢作町三区)保存修理)

評価軸④-3
文化財の保存又は活用に関する事項

項目		評価対象年度	平成28～29年度 現在の状況
文化財に関する普及・啓発の取組、民間団体と連携した取組			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	イベントやシンポジウム等の開催や、文化財に係る情報を整理し、パンフレット等の情報誌の配布やホームページでの公開等を通じて、多様な形で情報を発信していき、市民が文化財に対して親しみや愛着、誇りを持てるよう努めていくものとする。 各種団体との連携や多様な活動の一層の活性化を図るため、必要な情報提供や人材育成等の支援を積極的に行い、地域住民等が主体となる文化財保護活動を進めていくものとする。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
・岡崎城跡発掘調査現地説明会(平成28年度～平成29年度:7回開催、延べ参加人数4,310名)(評価軸③－1参照) ・岡崎城跡現地見学会(平成29年度:3回開催)(評価軸③－1参照) ・文化財移動教室(年10回開催)、親子文化財教室(年1回開催)(評価軸③－4参照) ・歴史的建造物調査を愛知県建築士会岡崎支部、愛知県建築士事務所協会岡崎支部所属の建築士有志と連携して実施した。(評価軸③－2参照)			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等



菅生川端石垣発掘調査現地説明会(H28.4.16)



月見櫓発掘調査現地説明会(H29.9.2)



岡崎城跡清海堀ツアー(H30.2.4)



文化財移動教室(伊賀八幡宮)(H29.11.7)



親子文化財教室(菅生曲輪)(H29.8.19)



歴史的建造物調査(H29.2.18)

評価軸⑤-1

効果・影響等に関する報道

報道等タイトル		年月日	掲載紙等
■テレビ			
「岡崎市歴史的風致維持向上計画」認定	平成28年5月18日	NHK総合	
「菅生川端石垣」紹介 ★	平成29年2月1日	東海テレビ	
岡崎城の石垣は「5.4m」 ★	平成29年2月1日	東海テレビ	
「月見櫓発掘調査」紹介 ★	平成29年8月30日	東海テレビ	
「月見櫓発掘調査」紹介 ★	平成29年8月30日	メ〜テレ	
「月見櫓発掘調査」紹介 ★	平成29年8月31日	CBCテレビ	
「ブラアイチin岡崎」紹介	平成29年11月16日	CBCテレビ	
「光ビスタライン」紹介	平成29年12月23日	メ〜テレ	
「光ビスタライン」紹介	平成29年12月25日	メ〜テレ	
■新聞			
岡崎の風致維持認定へ 電線地中化など補助対象に	平成28年5月18日	読売新聞	
歴史的風致維持 国の補助対象に	平成28年5月20日	中日新聞(西三河版)	
歴史まちづくり 国が岡崎市認定	平成28年5月24日	朝日新聞	
家康の生誕地を整備 岡崎風致維持 月見櫓など復元へ	平成28年5月24日	読売新聞	
歴史的風致維持へ 岡崎市の計画 国が認定	平成28年5月26日	東海愛知新聞	
家康生誕の地 全国に発信へ 岡崎市まちづくり事業	平成28年6月23日	毎日新聞	
岡崎の史跡や名店巡ろう まち歩き案内「岡さんぽ」	平成28年6月23日	中日新聞(西三河版)	
歴史的建造物の実態調査へ 岡崎市と建築士団体文化財登録めざす	平成28年8月30日	中部経済新聞	
築70年以上建造物調査	平成28年8月30日	中日新聞(西三河版)	
歴史的建造物を調査 築70年以上住宅など6,500件	平成28年8月30日	東海愛知新聞	
松應寺の廟所 発掘進む	平成28年9月2日	中日新聞(西三河版)	
矢作の山車引き回し 2台同時初 矢作町の文化財も公開	平成28年9月13日	中日新聞(西三河版)	
矢作の山車 初の共演 岡崎「やはぎの里まつり」	平成28年10月2日	中日新聞(西三河版)	
岡崎おもてなしタクシーの紹介	平成28年10月9日	中日新聞(西三河版)	
史跡生かした観光拠点に 城跡整備基本計画を発表 ★	平成28年12月17日	中日新聞(西三河版)	
市内47学区の情報網羅 岡崎まちものがたり完成式	平成29年1月20日	中日新聞(西三河版)	
次代につなぐ地域自慢 岡崎まちものがたりお披露目会	平成29年1月20日	東海愛知新聞	
400メートルの石垣 地中も公開 ★	平成29年1月22日	朝日新聞(県内)	
岡崎城跡の石垣再び 現地説明会 ★	平成29年1月24日	東海愛知新聞	
菅生川端石垣の規模実感 岡崎城跡説明会 ★	平成29年1月25日	中日新聞(西三河版)	
岡崎城石垣に刻印複数 城の南端新たに確認 ★	平成29年1月26日	読売新聞	
石垣の胴木、くい発見 岡崎城調査 370年前の姿をとどめる ★	平成29年2月2日	中日新聞(西三河版)	
岡崎城周辺の発掘 6月以降3ヵ所で ★	平成29年3月23日	中日新聞(西三河版)	
「岡崎城跡整備基本計画」を策定 ★	平成29年3月23日	東海愛知新聞	
岡崎城木造で復元検討 総構え一体整備も ★	平成29年3月23日	読売新聞	
岡崎市文化財マップで解説	平成29年6月1日	中日新聞(西三河版)	
歴史的風致形成建造物 市内6件を初めて指定	平成29年6月2日	東海愛知新聞	
地域の魅力伝えます 来月から47学区記念誌活用	平成29年6月18日	東海愛知新聞	

堀と遺構を確認中 岡崎・籠田公園の試掘調査 ★	平成29年7月13日	東海愛知新聞
岡崎城総堀遺構を発掘 ★	平成29年7月21日	中日新聞(西三河版)
岡崎城総堀の遺構確認 発掘調査 防御施設「総構え」の一部 ★	平成29年7月22日	読売新聞
歴史的価値の継承へ 県建築士事務所協会岡崎支部 9月から人材養成講座	平成29年7月28日	東海愛知新聞
城下町に残る景観継承 岡崎の公益法人が開催	平成29年8月1日	毎日新聞
建造物保存の専門家を養成	平成29年8月13日	中日新聞(西三河版)
岡崎城遺構公開 月見櫓 ★	平成29年8月31日	中日新聞(西三河版)
城跡の現地説明会 発掘調査中の月見櫓など ★	平成29年8月31日	東海愛知新聞
月見櫓跡から石組み発掘 岡崎城 ★	平成29年8月31日	読売新聞
岡崎城「月見櫓」跡など確認 ★	平成29年8月31日	朝日新聞
歴史的風致維持向上計画書 15日から販売へ	平成29年9月13日	東海愛知新聞
石工 国際大会で成果を 技能五輪全国優勝	平成29年9月15日	中日新聞(西三河版)
歴まち計画書 販売	平成29年9月26日	中日新聞(西三河版)
建立当時の姿に修復 日吉山王社事業に寄付募る	平成29年10月26日	東海愛知新聞
社殿修復費の寄付募る 日吉山王社 雨漏りや腐食進み	平成29年10月27日	中日新聞(西三河版)
「ブラアイチ」でまち歩きいかが	平成29年11月17日	中日新聞(県内版)
岡崎城石垣 2日説明会「菅生曲輪」の発掘調査 ★	平成29年11月30日	中日新聞(西三河版)
9年ぶりに光照射 大樹寺→岡崎城 23日にビスタライン	平成29年12月2日	東海愛知新聞
歴史と地形を知ろう 24日県内初ブラアイチin岡崎	平成29年12月3日	東海愛知新聞
岡崎 菅生曲輪発掘調査 ★	平成29年12月3日	東海愛知新聞
「ブラアイチ」岡崎で第一弾 歴史や地形歩いて発見	平成29年12月7日	読売新聞
まち歩きイベント試行コースを開催	平成29年12月7日	中部経済新聞
23日に「光ビスタライン」大樹寺ー岡崎城の眺望保全啓発	平成29年12月13日	中部経済新聞
24日に「ブラアイチ」街の成り立ち探索	平成29年12月13日	中日新聞(西三河版)
ビスタライン光ともす 家康生誕祭合わせ	平成29年12月19日	中日新聞(西三河版)
大樹寺→岡崎城 光の道「ビスタライン」ライトで照らす	平成29年12月24日	中日新聞(西三河版)
夜空に浮かぶ 歴史的眺め	平成29年12月25日	読売新聞
光のビスタライン 大樹寺→岡崎城 約9年ぶり	平成29年12月26日	東海愛知新聞
初公開の「清海堀」来年2月岡崎城専門家と巡る見学会	平成29年12月28日	東海愛知新聞
市内散策マップ作成 レトロ建築巡りどうぞ	平成30年1月12日	中日新聞(西三河版)
祭りや建物 歴史生かそう 岡崎で21日にシンポ	平成30年1月19日	中日新聞(西三河版)
旧代官屋敷 耐震性調査 交流拠点 古民家再生へ	平成30年1月20日	中日新聞(西三河版)
岡崎城 清海堀を初公開 曲線状の石垣見学	平成30年2月6日	中日新聞(西三河版)
岡崎 タイで観光アピール 無料ガイドに特集	平成30年2月12日	中日新聞(県内版)
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
各種事業の成果が新聞各紙に掲載されたことで市民への周知が図られ、歴史的まちづくりへの興味や関心を高めることができた。特に岡崎城跡に関連する発掘調査現地説明会では、見学や資料提供等の問合せが県内外から集中するほどの反響があり、普及啓発の効果が感じられた。(7回開催し、延べ参加人数は4,310人) ★は岡崎城跡の発掘関連記事		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
□計画の進捗に影響あり ■計画の進捗に影響なし		
状況を示す写真や資料等		

評価対象年度

平成29年度

項目

市民意識や認知度の向上

計画に記載
している内容

歴史的風致を維持向上させ将来にそれを継承するためには、歴史的建造物や伝統行事など、歴史的風致を構成する要素への市民等の理解が最も重要であることから、これらの普及啓発に努め、歴史まちづくりに対する市民意識の向上を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で。記事・議会議事録等を添付

○「岡崎市歴史的風致維持向上計画」計画書の販売

本市の計画書は、第2章「岡崎市の維持向上すべき歴史的風致」のみならず、第1章「岡崎市の歴史的風致形成の背景」が特に充実しており、一般的な歴史の読み物としても面白いものになっているため、認定当初より多くの方から販売の要望の声をいただいていた。そこで平成29年度より一般販売を開始したところ、80冊以上を売り上げ、本市の歴史を総括的に学ぶことができるとして好評を得ている。

○「ブラアイチin岡崎」の開催

歴史と地形からまちの様々な知られざるストーリーを発掘・紹介する「ブラアイチin岡崎」を愛知県と共催で開催した。岡崎城跡の遺構を感じられる地形の特徴などから歴史を紐解き、地域の魅力を再発見するまち歩きイベントで、県内初の試みであった。マップを片手に自由散策形式で歩き、主要ポイントではパネルを基に詳しい解説が聞けるため、市内外から多くの方に参加いただき、本市の歴史的風致の普及啓発が図られた(参加者709名)。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

□計画の進捗に影響あり

■計画の進捗に影響なし

状況を示す写真や資料等



岡崎市歴史的風致維持向上計画
(H29年度)

時期	販売数(冊)
9月	42
10月	19
11月	6
12月	2
1月	15
2月	1
3月	0
合計	85

販売数(H29年度)



「ブラアイチ in 岡崎」ウォーキングコースマップ



「ブラアイチ in 岡崎」解説の様子
(H29.12.24)

評価軸⑥-2
その他(効果等)

項目	評価対象年度	平成29年度
----	--------	--------

観光振興の動向

計画に記載している内容 美しく風格ある岡崎を創出し、訪れる人々に感動を与えられるようなまちづくりを行うことで、地域の活性化や観光振興につなげていくことが重要である。

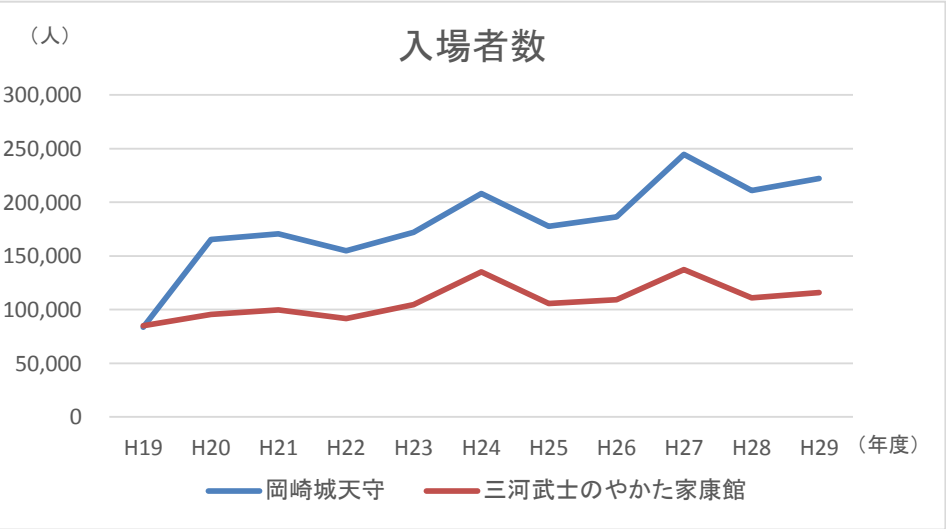
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で。記事・議会議事録等を添付

本市の歴史まちづくりの顔である岡崎城天守と三河武士のやかた家康館(ともに岡崎公園内)の入場者数、市内の観光施設入込客数、岡崎公園への外国人旅行客数は、どれも平成27年度は家康公顕彰四百年記念事業の影響もあり特に増加しているが、全体で見ると増加傾向にあり、歴史文化資産を活かした観光振興の展開に徐々に効果が出ている。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☐ 計画の進捗に影響あり ☒ 計画の進捗に影響なし	

状況を示す写真や資料等

◆岡崎城天守・三河武士のやかた家康館 入場者数



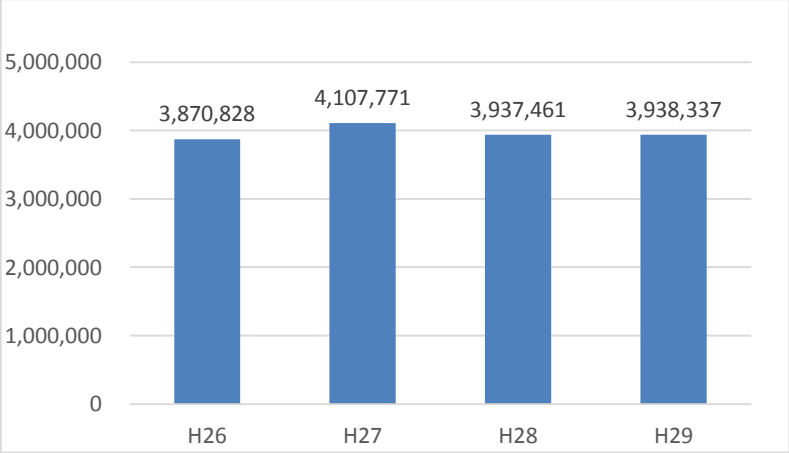
岡崎城天守



三河武士のやかた家康館

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
岡崎城天守	83,686	165,442	170,728	154,837	172,121	208,382	177,593	186,567	244,574	211,103	222,326
三河武士のやかた家康館	85,006	95,715	99,702	91,793	104,604	135,186	105,943	109,128	137,204	111,090	116,043

◆観光施設入込客数



◆岡崎公園への外国人旅行客数(バスツアーのみ)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
旅行客数	1,070	2,044	1,925	2,452
ツアー数	39	62	74	95

出典: 岡崎公園観光バスヒアリング調査

← 道の駅藤川宿、南公園、岡崎公園、岩津天満宮、東公園、八丁味噌蔵、くらがり溪谷、地域文化広場 他

法定協議会等におけるコメント

(様式2)

評価対象年度	平成28～29年度
・法定協議会等におけるコメント	
コメントが出された会議等の名称: 岡崎市歴史まちづくり協議会	
会議等の開催日時: 平成30年3月29日	
(コメントの概要)	
【①組織体制】 ・計画の推進に係る担当課の新設や文化財保護行政とまちづくり行政が緊密に連携する庁内体制により、数多くの事業を円滑に進めており評価できる。 【②重点区域における良好な景観を形成する施策】 ・良好な景観形成において屋外広告物の影響は大きく、共通基準による規制に加え、今後、地域の特性に応じた独自の規制の検討もあり得る。 【③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項】 (無形民俗文化財等調査支援等事業) ・継承されている文化財と地域をいかに結びつけていくか幅広く考えていくことが重要。歴史文化基本構想策定事業において、建造物だけでなく、民俗文化財等の他の文化財の状況も調査して、それを踏まえて支援を行うなど様々な面から検討すると良い。 (伝統的技術・活動継承支援等事業) ・伝統的な技術がどの時代から始まり、どのように広がったかといった裏付けとなる情報を把握・記録したうえで、その魅力を発信していかなければ継承につながらない。 【⑥その他(効果等)】 ・観光や市民の誇りといった視点から、歴史的風致の維持向上に対する市民の実感や、観光基本計画とも連携し、宿泊数など観光客の増加等の成果についても把握していくことが今後必要。 【総括】 ・計画に記載されている事業が着実に進んでおり評価できる。	
(今後の対応方針) ・本進捗評価を各事業の見直しの機会と捉えて、協議会での意見を踏まえ、庁内調整を図りながら、着実に事業を推進していく。 ・屋外広告物の規制については、実態調査を踏まえ、地域の特性に応じた規制の見直しを検討する。 ・無形民俗文化財等の調査支援等については、歴史文化基本構想策定事業における民俗文化財の状況調査を踏まえるなど様々な面で検討を加えて支援を行う。 ・伝統的技術・活動の継承支援等については、伝統の根拠となる情報を整理するとともにその魅力や価値もしっかりと情報発信していく。 ・毎年度の事業の達成状況(アウトプット)に加えて、平成32年度の間評価を念頭に、関連計画との連携による波及効果などの成果(アウトカム)を把握していく。	